

# 平成18年度病害虫発生予報第10号

平成18年12月7日  
鳥取県病害虫防除所

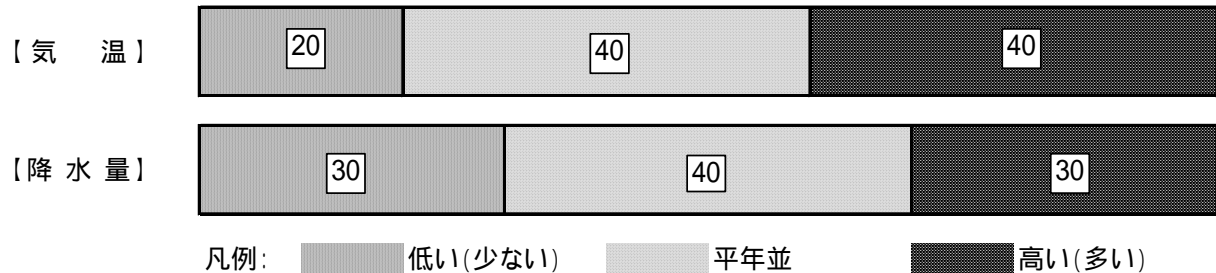
## 予報の概要 [参考]

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	やや早い	やや多い
	イチゴ	うどんこ病 灰色かび病	やや遅い 平年並	やや少ない 平年並

## 気象予報 (抜粋)

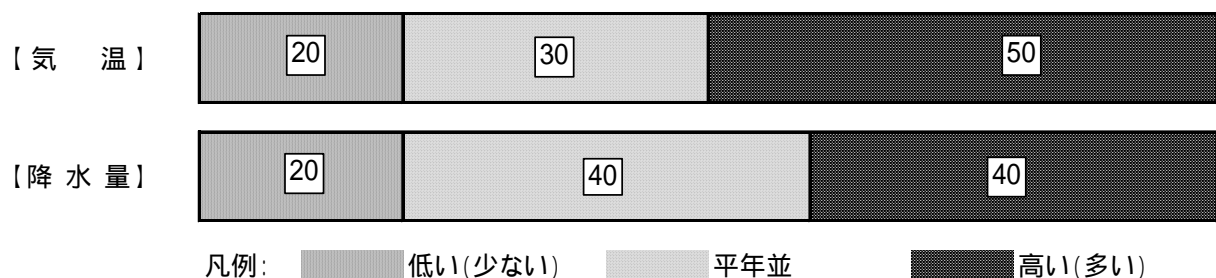
1か月予報 (12月2日～1月1日: 12月1日、広島地方気象台発表)  
向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



3か月予報 (12月から2月までの天候見通し: 11月22日、広島地方気象台発表)  
この期間の平均気温は高い確率50%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

< 向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



## 野菜

### [ラッキョウ]

#### 1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部および中部の現地ほ場の一部で発病が認められており、平年に比べて発生時期がやや早い。

イ 本病は低温期の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう3か月の平均気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、発病にやや好適な条件が続くと見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、発病前の予防散布が効果的であり、12月中～下旬にはリドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、カーゼートPZ600倍液のいずれかを散布する。

イ 1～2月に降雨が続く場合および雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液等を散布する。

ウ 前年に発生が多かったほ場では、土壌中の病原菌密度は高いと考えられるので、圃場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 夏期が高温で推移したため本病の発生時期がやや遅れており、11月下旬現在のほ場における発生量はやや少ない。

イ 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病性品種では、発病後の防除は難しいので、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考にC群の硫黄くん煙剤(サルファグレン)、またはG群の薬剤を選択して使用する。

イ すでにほ場で発生しているほ場では、表1を参考にA群、B群+E群の混用、D群、ジーファイン水和剤+F群の混用、E群の各薬剤を7日間隔で散布後、C群の薬剤を処理する。灰色かび病の発生がみられるときは、G群、H群の薬剤を散布する。

ウ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液がよくかかるように、丁寧に散布する。

エ なお、薬剤の使用に当たっては、A群、B群の同一群内の薬剤及び同一薬剤の連用は避ける。また、A群は、浸透性を高める効果のある展着剤と混用すると薬害が発生しやすいので加用しない。

表1 イチゴうどんこ病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	ストロビリン系	アミスター-20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日
		ストロビ-フロアブル	3,000～5,000倍	3	前日
B	E B I 剤	サルバト-レME	2,000～3,000倍	3	前日
		ラリ-水和剤	4,000～8,000倍	3	前日
		ルビゲンくん煙剤	40g/200m <sup>3</sup>	3	前日
		ハイコラル水和剤	5,000倍	3	前日
		トリフィン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日
		トリフィンジ-ェット	50g/400m <sup>3</sup>		前日
		パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日
C	水和硫黄剤	サルファ-ソール	500～1,000倍	4	-
		クムラス	500～1,000倍	-	-
	硫黄くん煙剤	サルファグレン	0.10g/m <sup>3</sup>	-	-
D	キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日
E	炭酸水素カリウム	カリグリーン	800～1,000倍	-	前日
	炭酸水素ナトリウム	ハ-モイト水溶剤	800～1,000倍	-	前日
	炭酸水素ナトリウム・銅	ジ-ファイン水和剤	750～1,000倍	-	前日
F	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	-	前日
G	D B E D C 剤	サンヨール	500～1,000倍	6	前日
H	アクリルピリミジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビカくん煙剤	50g/500m <sup>3</sup>		前日
	グアジニオン系	ヘルコート水和剤	4,000倍	2	前日

## 2 灰色かび病

### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 平年並

### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少ないため、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 気象予報によると、向こう3か月の平均気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2の薬剤を参考にA群、B群の薬剤を予防散布する。その後、C群、D群の各薬剤を7～10日間隔で輪番散布する。

エ なお、薬剤の使用に当たっては、耐性菌の発達しやすいC群の薬剤の輪番処理および同一薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	D B E D C 剤	サンヨール	500倍	6	前日
B	アニリル <sup>®</sup> リミジン系	フルビ <sup>®</sup> カフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビ <sup>®</sup> かくん煙剤	50g/500m <sup>3</sup>		前日
C	ジ <sup>®</sup> カルボキシミド系	ロフ <sup>®</sup> ラル水和剤	1,500倍	4	前日
		ロフ <sup>®</sup> ラルくん煙剤	100g/300～400m <sup>3</sup>		前日
		スレックス水和剤	2,000倍	3	前日
		スレックスくん煙顆粒	6g/100m <sup>3</sup>		前日
D	フェニル <sup>®</sup> ロール系	セ化 <sup>®</sup> アフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
	フェニル <sup>®</sup> ロール系・ヒト <sup>®</sup> ロキシアニド系	ジ <sup>®</sup> ヤストミト顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
	ゲ <sup>®</sup> アジニン系・ヒト <sup>®</sup> ロキシアニド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日

## [ おしらせ ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。  
詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。( <http://www.acis.go.jp/> )

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。**

**周辺への飛散には充分注意しましょう。**

### < 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、フェロモントラップの調査結果、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : boujyot@titan.oce.ne.jp

次回の予報発表は、平成19年2月1日(木)の予定です。